



本堂の前で檀信徒さんらに見送られる教瑞師

願 満

復刊第十三号
2011年 12月
身延別院発行
〒103-0001
東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2
Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

教瑞師が初行として入行



身延別院の修徒、藤井教瑞師が十一月一日、中山法華経寺の日蓮宗大荒行堂に初行として入行しました。一年で最も寒さが厳しい季節である来年二月十日までの百日間、水行と読経三昧の日々を送ります。

大荒行は、日蓮宗に伝わる祈禱法の伝授を受けるために行われます。入行僧は午前三時前に起床し、午前三時から午後十一時まで一日七回の水行にのぞみます。水行の間は読経三昧。伝師から、修行の回数に応じて、初行、再行、三行、四行、五行とそれぞれ秘法の伝授を受けます。睡眠時間は一日二時間半弱、食事はお粥とみそ汁の粗末なもの。寒さ、餓え、睡眠不足の極限状況を乗り越えた者だけが「修法師」として日蓮宗独特の加持祈禱を許されます。

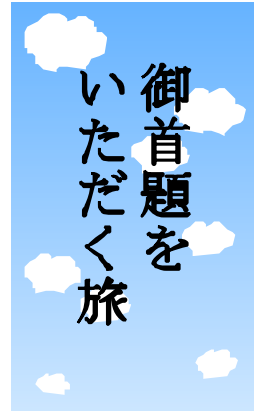
教瑞師は昨年三月から今年四月まで、身延山僧道実習生として修行に励みました。その後、今年四月から五月にかけて三十五日間、信行道場で修行し、日蓮宗の教師として当院に帰ってきました。それから半年も経ちませんが、今度は修法師を目指します。

この日、法華経寺の境内には、早朝から師僧や留守を託す寺族、檀信徒が集い、入行僧を激励する姿があちこちで見られました。当院からも四人の寺族、檀信徒が法華経寺に駆けつけ、「体に気をつけて」「がんばって」などと教瑞師に声をかけていました。

午前九時に、昇堂の号令とともに外堂の正面の扉が開くと、教瑞師をはじめ百五十九人の入行僧は、寺族、檀信徒に見送られて入堂しました。引き続き祖师堂で入行会にのぞみ、終了後、奥の院などを参拝して荒行堂の瑞門の中へと消えて行きました。教瑞師が無事に成満の日を迎えることを、檀信徒一同は願っています。(五ページに特集。平山)



七面山の遙拝所から見た富士山と御来光 (2011年10月10日)



第十三回 山梨県身延町・七面山敬慎院

十月八、九、十日の三連休を利用して山梨県身延町の七面山に登ってきました。願満の読者の皆さんでしたら、七面山は、もうご存知ですよ。

次のような言い伝えがあります。日蓮聖人が身延の山中の大きな石の傍らで村人たちに説法をしていますと、いつも妙齢の婦人が来て話を聞いていました。見慣れない人なので村人たちは不思議に思っていました。日蓮聖人がその婦人に「みんなが不思議に思っているからそなたの本体を見せてあげなさい」と言うと、婦人は聖人に水を乞い、さし出された花瓶の水を手のひらに落とすと、たちまち一丈あまりの龍となり、花瓶にまきつきました。「私は七面山に住む七面天女です。法華経の山を守護する護法神として姿を現しました。法華経を信じ、受持する人が心から祈るならば願いをかなえ、心の安らぎと満足を与えましょう」。そう言い終わると、七面山の方に舞い上がって姿を消しました。

その七面山は、標高一九八二メートル。富士山のちょうど真西にあります。実は、七面山に登るのは今回が二回目。前回、二〇〇七年に登ったときは真夏の八月下旬でした。そのときは登山口にある白糸の滝で、滝に打たれてから出発しました。翌朝の御来光は富士山の頂上の左側から出たのを覚えています。さて、今回は新潟市のお寺の団参の一行に加えてもらい七面山を目指しまし

た。台風十五号が猛威をふるったあとがあちこちに見られ、登山口までの道の途中、四、五台の乗用車が土砂に埋まって抜け出せなくなっているのを見たときは本当に驚きました。

十月初めとはいえ、かなり涼しく、滝行はせずに出発しました。登山道のほうは土砂崩れが起きている場所はなく、安心して登れました。ただし、ふだんの運動不足が影響して、すぐに息が切れしました。本当にゆっくり、ゆっくり、マイペースで登りました。途中の神力坊、肝心坊、中適坊、晴雲坊でご朱印をいただき、四時間弱で宿泊場所である山頂の敬慎院に到着しました。翌朝は五時に起床。御来光を遥拝する広場へ向かいました。午前五時五十分ごろから富士山の頂上の右側がオレンジ色に輝きだし、やがて金色の御来光を目の当たりにしたのでした。感激したのは言うまでもありません。(平山徹・新聞記者)



みんなで学んだ「助け合いの心」 寺子屋修養道場



本所にある防災館で記念撮影(2011年8月28日)



日本橋三越で防災設備を見学
(8月27日)



楽しかった川下り
(8月27日)



数珠の持ち方を習いました
(8月27日)

身延別院青年会のメンバーが八月二十七、二十八日の一泊二日の日程で、「お寺に泊まろう」寺子屋修養道場」を開きました。檀信徒の子どもさん、お孫さんなど九人が、夏休みの思い出の一ページを刻みました。

寺子屋修養道場は、青年会が子育て支援を中心に活動していることから、副住職が中心となって昨年初めて企画されました。二年目・二回目となる今回は「助け合いの心」がテーマ。子どもさん、お孫さんが家から離れ、お寺で生活することで、人や命に対する感謝の気持ちを養ってもらうことが目的です。

一日目の午前十時十五分から、保護者も参加して開会式が行われました。日程説明、法話の後、子どもたちは日本橋たもとの棧橋に移動し、隅田川までの川下りを楽しみました。続いて日本橋三越(デパート)の防災設備を見学。日本橋室町の盆踊りにも参加しました。就寝前にはビンゴ大会も行われ、楽しい一日を締めくくりました。

二日目は午前五時半に起床。朝のおつとめでは、本堂でお坊さんたちと一緒に正座し、お経を読みました。掃除の時間ではみんなで手分けをして本堂、廊下、境内の清掃にも取り組みました。そうきんの絞り方や掛け方、ほうぎの使い方なども学びました。朝食後は本所にある防災館に移動。地震の揺れを体感したり、ビル火災の避難方法を学んだりしました。

その後、子どもたちは身延別院に戻って二日間の感想文を書き上げ、全日程を終了しました。あつという間の二日間で、有意義な時間を過ごすことができました。



祖師堂で読経する159人の入行僧。前列左端に教瑞師の姿

大音声の読経

荒行堂入行会で教瑞師



お経本を手に読誦

千葉県市川市の大本山中山法華経寺荒行堂に十一月一日、初行として入行した当院修徒の教瑞師。入行会では檀信徒に見守られる中、緊張の面もちから決意の表情へと顔を引き締めていました。

そして、今回入行する百五十九師の一員として大音声の読経を祖師堂内に響かせていました。教瑞師が固い決意で荒行を成就することを願ってやみません。

来年一月九日(月曜日・成人の日)には、荒行堂の見舞を予定しています。檀信徒の皆さんどうぞご参加下さい。



入行僧同士で打ち合わせ



仲間と再会し顔がほころぶ教瑞師

寺の動き



青年会のメンバーが出した豚汁の店

豚汁三百食を完売

べったたら市で青年会

身延別院青年会が十月十九、二十日、東京・日本橋本町の宝田恵比寿神社を中心に開かれる「べったたら市」に参加し、「豚汁」の店を出しました。

べったたら市は江戸時代中期から続いていると言われる伝統の行事です。毎年十月二十日の恵比寿講にお供えをするため、前日の十九日に市

が立ち、野菜や魚、神棚などが売られるようになったことが起源とされています。中でも、浅漬大根のべったたら漬けがよく売れたことから、べったたら市と呼ばれるようになりました。この二日間は現在もべったたら漬けをはじめ、お好み焼き、焼きそば、じゃがバターなど三百軒以上の露店が並び、正午から午後十時までの間、たくさんの人でにぎわいます。

青年会は、身延別院檀信徒の関係者である大伝馬町一之部町会長の石倉知之さんらのご尽力で、一昨年のべったたら市に初めて出店し、「揚げたこ焼き」の店を出しました。昨年は「讃岐うどん」の店を構えました。今回は藤井教祥副住職を中心に青年会のメンバーが、一日で百五十食を二日分用意しました。

当日はメンバーが「からだが温まりますよ」「いかがですか」などと、道行く人に声をかけました。注文が入るたびにメンバーが豚汁を再加熱してお椀によそい、たつぷりのネギと、好みに合わせて七味唐辛子をふりかけて手渡していました。一食三百五十円。

二日間で三百食すべてを売り切り、約十萬円の収益がありました。収益金は子育て支援活動に充てる予定です。ご協力いただいた檀信徒の皆さん、ありがとうございました。

お会式の花作り奉仕

身延別院の檀信徒の皆さんが十月十九、二十日、お会式の花作りに取り組みました。お会式

では毎年、本堂の外内にピンクと白の薄紙で作った花をたくさん飾りつけます。その花をみんなで手分けして作り、竹や万灯にくくりつけるものです。作業は地下ホールで行われました。お手伝いいただいたのは以下の皆さんです。

阿久津喜美子、有澤文子、上遠野美津子、工藤祐子、辻野幸子、小林聡子、杉田喬子、林好江、黒石鈴子、寺久保トシ子、石田光子、北村孝子、杉山尊子、今井善子、岡本春雄、岡本つね子、埴多賀子（敬称略）。
ありがとうございました。



お会式の花作りをする檀信徒の皆さん(10月19日)

吉田松陰先生の追悼法要と講演会

社団法人・活人塾が当院で開催

幕末の激動の時代の思想家、吉田松陰をはじめ伝馬町牢獄で亡くなった精霊の追悼法要と講演会が十月二十三日、身延別院で行われました。主催したのは、藤井教祥・当院副住職が代表を務める「社団法人 活人塾（かつじんじゅく）」です。活人塾は伝馬町牢獄で斬首された吉田松陰や幕末の志士などの思想や生き方を学び、それを次世代に伝えることを目的に、身延別院青年会のメンバーが中心となって設立されました。



追悼法要を営む当院住職

当日の追悼法要は身延別院の藤井教住職が勤め、法要の後、吉田松陰研究の第一人者の海原徹・京都大学名誉教授が講演しました。活人



講師を務めた海原名誉教授

塾のメンバーが事前にチラシを配布したこともあって、約八十人の歴史ファンなどが当院を訪れ、熱心に聴講しました。講演終了後も海原名誉教授に質問が相次ぎ、本堂は熱気に包まれました。活人塾はこれからもたくさんの方の催事を開催していく予定です。ご興味・ご関心をお持ちの方は、身延別院副住職までご連絡ください。

豆入れ奉仕のお願い

来年の追儺式（節分の豆まき）で用いる豆の袋詰め作業を、一月十八日（水）、十九日（木）に行います。七センチ四方ほどの小さなビニールの袋に、さかづき一杯分ほどの豆を詰め、袋の口を折りたたみ、ホチキスで留めていく作業です。お手伝いいただける方、今回もどうぞよろしく願います。

今後の予定

一月 一日（日）～三日（火）

新年初詣、終日御開帳

九日（月）中山法華経寺荒行堂参拝・新年御祈祷。総武霊園・厄除け祖師

本山堀之内妙法寺参拝・御開帳

十日（火）初十三日講（鏡開き）法要・法話並びに初甲子大黒天祭礼

二月 三日（金）節分会追儺式（豆まき）

午後一時より

編集後記

願満第十三号をお届けします。今回は、当院修徒の教瑞師が中山法華経寺荒行堂に入行したことを特集しました。私たちには想像もできない厳しい修行。二月十日には無事成満してほしいと願うばかりです。

また今回は、「檀信徒さん登場」のコーナーをお休みし、お会式のお稚児さんとその家族の写真を掲載しました。お稚児さんの笑顔には輝く未来を感じます。

次回の発行は節分後を予定しております。

（上野）

お会式

身延別院のお会式が十一月三日に開かれました。お会式は、日蓮聖人がおなくなりになられた十月十三日を中心に、全国各地の日蓮宗寺院、教会、結社で行われる法要儀式です。今年で七百三十回を数えました。

身延別院では毎年十一月三日・文化の日にお会式を行っています。たくさん檀信徒さんを迎えるために、お寺ではお会式に向けて万灯を準備したり、薄紙で作った花を本堂内に飾ったりと檀信徒さんの協力で会場づくりを進めてきました。四年前から復活となったお稚児さん行列は、今年は参加人数が少なかったこともあって中止となりました。

お練りはなかったものの、六人のお稚児さんが参加。本堂の前で記念撮影した後、お会式法要が本堂で厳かに営まれました。お稚児さんの一人、松野彪雅くん(七歳)が参列者を代表して、日蓮聖人のご遺徳をしのぶ祭文を読み上げました。

